

# グルジア政治・経済 主な出来事

【2013年7月22日～7月28日】

[当地報道をもとに作成]

平成25年7月31日

在グルジア大使館

## 主な動き

### 1. アブハジア・南オセチア

#### ▼ヌルガリエフ露安全保障会議副議長がアブハジアと南オセチアを訪問(25日-26日)

・25日「ヌ」副議長はアブハジアを訪問。アंकワブ「大統領」と安全保障面での今後の協力の見通しについて会談。

・26日、「ヌ」副議長は南オセチアを訪問。ティビロフ「大統領」と会談し、ともにアハルゴリ地区の村々を視察。

#### 【アブハジア】

#### ▼2013年上半期のアブハジアへの移住者(26日)

・「移民局」によれば、2013年上半期に1906人の外国人がアブハジアに住民登録された。主な出身国はウズベキスタン、モルドヴァ、ウクライナ、ラトビア、ロシア。

#### 【南オセチア】

#### ▼ロシアの記者団が南オセチアを訪問(23日)

・南オセチアの記者とともに南オセチアの国内を視察。境界線付近の村々や露軍基地などを見学。

#### ▼ティビロフ「大統領」の記者会見(24日)

・ロシアおよび南オセチアの記者が参加した記者会見で、ティビロフ「大統領」は、「南北オセチアにとって民族の統合は最も重要な課題である」「私が大統領である間に南北オセチアが統合されれば、私は自分の使命を果たしたと考える」と発言。統合の暁には南オセチアはロシア連邦の一部となると強調。

#### ▼アハルゴリ地区の「国境」管理の厳格化(24日)

・記者会見でティビロフ「大統領」は、9月18日以降アハルゴリ(南オセチアでの呼称は「レニンゴル」)地区とグルジアとの「国境」の車両の通過が禁止されるが、南オセチア「政府」はそれによる否定的な影響を防ぐための措置を取ると説明。

### 2. 外 政

#### ▼パンジキゼ外務大臣がブリュッセルで行なわれたEU東方パートナーシップ外相会合に出席(22日)

・11月末にヴィリニウスで行なわれるEU東方パートナーシップ首脳会議について議論。会合後、パンジキゼ外務大臣は「我々は首脳会議までに連合協定の仮調印を妨げるものは何もないというシグナルを受け取っており、それは変わることはないだろう」と述べた。

#### ▼訪米中のジャバリゼ議員らがライス前国務長官と会談(22日)

・ジャバリゼ議員、ヒダシェリ議員、ゲゲシゼ駐米大使

がライス前国務長官とグルジア・米国関係や対露関係などについて会談。ライス前国務長官はグルジアに対する支援を約束。

・25日、イヴァニシヴィリ首相は、一部のメディアが報じたライス前国務長官が首相顧問に任命される可能性を否定。

#### ▼グルジア正教会総主教イリア2世がモスクワ、キエフ、ミンスクを訪問(23日-30日)

・25日モスクワにて行なわれた、キエフ・ルーシの洗礼から1025周年を記念するプーチン露大統領主催の式典に、他の8つの独立正教会の代表者とともに出席。キリル・ロシア正教会総主教と会談。

・その後、27日にキエフ、29日にミンスクで式典に参加。

・イリア2世は9チャンネル・テレビのインタビューで「キリル・ロシア正教会総主教は近い将来にアブハジアと南オセチアにおける正教会の問題について文書を作成すると私に約束した。プーチン露大統領も同意している」「その文書によって、避難民の帰還が始まるだろう。プーチン大統領は約束を守ってくれるはずだ」と述べた。

#### ▼訪米中のジャバリゼ議員らがターナー上院議員と会談(24日)

・ターナー議員(共和党)はNATO議員会議の米国代表団長で、先月米国上院で採択された国防権限法(Defence Authorization Act)のグルジアに関する修正の起草者。修正はグルジアの新政府について、「前政権の高官や野党のメンバーに対する一連の措置は政治的に動機づけられているように思われる」として、そのような措置が「グルジアと米国との関係および国際機関へのグルジアの統合の進捗に重大な否定的影響を与える可能性がある」と記述している。

・現政権は国防権限法の最終版でその修正が削除されるよう働きかけている。

#### ▼グルジアとナイジェリアが政府間の協力についての覚書に署名(25日)

・オンウリリ・ナイジェリア外務大臣がグルジアを訪問。ジャラガニア外務次官と国際機関における協力の見直し、通商関係の発展などについて会談。

### 3. 内 政

#### ▼大統領選挙に関する中央選挙委員会の発表(24日)

・中央選挙委員会によれば、24日までに大統領選挙への立候補を申請した25名のうち23名を受理。拒否された2名は二重国籍者であった。

・申請者は正式に立候補者として登録されるために一定数の署名を9月17日までに集めなければならない。立候補者の登録は9月27日に締め切られる。

#### ▼国会が死亡した兵士の遺族に対する補償の増額を承認(25日)

・国際的なミッションで死亡した兵士の家族に支払われる一時金がこれまでの1万5000ラリから10万ラリに引き上げられる。

・また、国際的なミッションで死亡した兵士およびグルジアの「領土一体性」をめぐる紛争で死亡した兵士の家族は、2014年から毎月最高500ラリ、2015年以降は最高1000ラリを受け取る。

#### ▼2013年の政党交付金(25日)

・中央選挙委員会が発表。政党交付金は、直近の国会選挙で4%、または直近の地方議会選挙で3%の法定得票率を越えた政党に対して交付される。

・14の政党に対し総額610万ラリが交付される。与党連合「グルジアの夢」(GD)に含まれる6つの政党は合計217万ラリ、野党「統一国民運動」(UNM)は203万ラリを受け取る。

・国会では法定得票率の引き下げや現在は禁止されている法人から政党への献金の許可が審議されている。

#### ▼内務省に保管されている盗聴・盗撮資料の処理をめぐる議論(25日)

・内務省によれば、不法な盗聴・盗撮によって前政権が収集した約24,000件の音声・映像資料が内務省に保管されている。

・内務省はこれまで「全ての資料を直ちに破棄する」との立場を示しているが、資料はまだ破棄されていない。

・EUのハマーバーグ・グルジア法制度・憲法改革・人権問題特別顧問は、特別委員会を設置し、「迅速かつ効率的な調査」を行なった後に資料を破棄することを助言。

#### ▼クヴィリカシヴィリ経済・持続的開発大臣が副首相に任命される(26日)

・16日に大統領選挙に向けた選挙運動を理由に辞任したマルグヴェラシヴィリ教育・科学大臣に代わり、イヴァニシヴィリ首相は「ク」経済・持続的開発大臣を副首相に任命。

#### ▼国会に「爆弾を仕掛けた」との脅迫電話(26日)

・ウスパシヴィリ国会議長は「爆弾が無い可能性が高いが安全規則に従って避難する」として午後の審議を中断。全員が避難した後、警察が建物を封鎖。

・同日、虚偽の脅迫電話をかけたとしてクタイシに住む71歳の男性が逮捕された。

#### ▼トビリシ市議会議長が交代(26日)

・UNM所属のサマダシヴィリ議長が市議会の投票により解任。新しい議長にシビアシヴィリ市議が選出された。「シ」新議長は元UNM所属であったが、現在は無所属。  
・昨年10月の議会選挙以降、トビリシ市議会では16名

の市議がUNMを離党し、UNMはトビリシ市議会で過半数を失った。

#### ▼「統一国民運動」の大統領選候補者が決定(27日)

・地方を回って党内投票を行ってきた野党UNMは、最後の6か所目の党内投票をトビリシで開催し、10月の大統領選候補者をダヴィト・バクラゼ院内総務・前国会議長に決定した。バクラゼ氏は6か所すべての党内投票で勝利。バクラゼ氏はGDの大統領選候補マルグヴェラシヴィリ氏に一对一の討論を行なうことを呼びかけた。

・党内投票の会場となったExpo Georgiaの外では集まった人々がUNMに対する抗議を行っていた。UNM党员ともみ合いになった3名が逮捕され、各自100ラリの罰金を払って釈放された。

#### ▼国会が大統領選挙の選挙運動に係る法律改正を採択(27日)

・候補者の得票率が10%を越えた場合には、選挙運動にかかった費用が最高100万ラリまで補填される。

## 4. 経 済

#### ▼EUとグルジアが「深化した包括的自由貿易地域」(DCFTA)の交渉を完了(22日)

・欧州委員会によれば、2012年2月に始められた交渉は「成功裏に終了」。DCFTAはグルジアが11月末のヴィリニウスでのEU東方パートナーシップ首脳会議で仮調印を目指しているEUとの連合協定の一部。

・DCFTAはグルジアからEUへの輸出を12%、EUからの輸入を7.5%増大させると予測されている。

・24日、アシュトンEU外務・安全保障上級代表とフーレ拡大・近隣政策担当欧州委員が、連合協定に係る交渉の「実質的な完了」を歓迎する共同声明を発表。

#### ▼警察がイラン人が密かに持ち込もうとした10万ドルを押収(22日)

・内務省と税務局によれば、10万ドルはトルコから入国したバスに隠されていた。

・税務局によれば、5月にはドバイから到着したイラン人からトビリシ空港で未申告の25万5700ドルを押収。6月にも同じくトビリシ空港でイラン人2名から未申告の6万ドルが押収されている。

#### ▼2013年上半期の貿易収支(24日)

・貿易額4713百万ドル(前年同期比3%減)、輸出額1236百万ドル(同9%増)、輸入額3477百万ドル(同7%減)。貿易収支は2241百万ドルの赤字。

・水およびワインの輸出額が前年同期比でそれぞれ45.7%、31.5%増。ロシアへの輸出の再開が一定の影響を与えたと考えられる。ロシアへの輸出総額は前年同期比で114%増。

・日本は第7位の輸入相手国。

#### ▼トビリシにホンダ・センターがオープン(27日)